

# 「生涯なんもしない相方」

—初稿—

2025/12/3

しのめ ののの

〈人物表〉

坂井 光也

(35)

お笑い芸人

細川 正伸

(35)

坂井の相方

小平 平介

(38)

坂井と細川の芸人仲間

広野 慎太

(45)

坂井と細川のマネージャー

1.

## TV局・収録スタジオ（朝）

派手なセットが組まれたスタジオ。

バラエティ番組の収録が行われており、ひな壇に芸人やタレントたちが数人座っている。彼らの視線の先には司会者。

坂井光也（35）、相方の細川正伸（35）と並んで座っている。

坂井、細川を指しながら声を張る。

坂井 「ほんつとに相方が無能なんですよ。何にもしない。何にもできないんですよ」

司会 「ほんとに？ 坂井が厳しすぎるだけじゃないの？」

坂井 「ほんとですって。仕事の量も俺と全然違うし。レンタルなんもしない人の方がまだなんかしてますって」

司会 「って言われてるけど、どう？ 細川的には」

細川 「ああ、はい、まあ……そうですね」

坂井 「ほらご覧の通り。返しの一つもろくにできない」  
スタジオで笑いが起きる。

坂井、大袈裟に呆れたような表情をキープ。

細川、ヘラヘラしている。

2.

## TV局・楽屋（昼）

収録を終えた芸人たち、楽屋に入ってくる。

数人の男性芸人の中に、坂井と細川も混じっている。

坂井、自分のリュックに近づき、軽く息を吐く。

そこから高速で着替え始める。

芸人仲間の小平平介（38）が声を掛けてくる。

小平 「この後飲むけど、来る？」

坂井 「昼間っから飲むなよ。俺、夜まで仕事」

小平 「流石だねー。（細川に向かって）細川も？」

離れた場所を着替えていた細川、ヘラヘラと返答。

細川 「いや俺は空いてる」

小平 「さっすが細川。今日もノリノリだったしね」

坂井、着替えながらも咄嗟に反応する。

坂井 「いやどこがだよ。何一つ生み出してないだろ」

細川 「まあまあ」

坂井 「ほら。さっきと同じ弄りされてんのにまだ返し考えてねえの。てかずーつとそう。中学ん時からずっと」

小平 「とか言ってる」

坂井 「いや、とか言ってるとかは無い。からの？ は無い」

小平 「ですが？」

坂井 「今回に限り？ ではない。永遠に無価値。最初っから粗悪品」

小平、笑いながら離れていく。

高速で着替えを終えた坂井、だらだらと着替えている細川のもとへ。

坂井 「じゃあ俺いくわ。新ネタ入れとけよ」

細川 「はいよー」

坂井 「あんま飲むなよ。調子乗んなよ」

細川 「はいはーい」

坂井、氣のない返事に呆れた様子で楽屋を出る。

小平が他の出演者たちを飲みに誘っている。

### 3. 別のTV局・収録スタジオ（昼）

坂井、別のスタジオでも熱心にトークをしている。

坂井 「ほんと使えないんすよアイツ。今度この番組で詰めてやってくださいよ。だってこないだの現場でも——」

### 4. 別のTV局・収録スタジオ（昼）

坂井、電気椅子で全力のリアクション。

坂井 「痛い痛い痛い痛い。何で俺がこんな目に遭わなきゃいけないんですか。こういうのは相方にやらせてくださいよ」

### 5. 別のTV局・収録スタジオ（夕）

坂井、情報系バラエティでスイーツを試食している。

坂井 「うわーこれは美味え。外はサクサク、中もサクサク——」

### 6. 別のTV局・関係者出入口（夜）

坂井、他のタレントに紛れてTV局から出てくる。

共演者1「おつかれたー」  
共演者2「坂井さん、飲み行きます?」  
坂井「いやごめん無理だわ。明日5時起き」  
共演者2「相変わらず忙しく。おつかれっすー」  
坂井「ういゝ」

坂井、賑やかに去っていく共演者たちを見送る。  
疲れた表情で息を吐き、足早にタクシーへ乗り込む。

7.

### タクシー内(夜)

坂井、バラエティ番組の台本を読み込んでいる。  
不意に電話が掛かってくる。

坂井、怪訝な表情を浮かべ、電話に出る。

坂井「……お疲れ様ですー」  
広野の声「お疲れ。今大丈夫?」  
坂井「大丈夫ですけど……どうしたんすかこんな時間に」  
広野の声「坂井くん、あのさ……大変なことになっちゃった」  
坂井「え?」

8.

### 総合病院・個室(夜)

坂井と広野慎太(45)、足早に病室へ入る。  
頭に包帯が巻かれた細川が横たわっている。

細川「すんませえん」  
坂井「何やってんだよお前」  
広野「飲んでる時に小平さんの悪ノリがエスカレートして、女の子が小平さん突き飛ばしたらしい」  
坂井「あのクソボケほんつとマジで」  
広野「で、突き飛ばされた小平さんが細川くんにつつかって」  
坂井「それで頭打ったの?」  
細川「うん」

坂井、大きくため息。

広野「軽い脳震盪らしいんだけど、一応入院ってことで」  
坂井「まじかあ……」  
広野「仕事への影響は……あんまり無いんだけど」  
細川「仕事自体が無いからねえ」

広野 「ただ、明後日のラジオは厳しいね」  
坂井 「……」

9.

### ラジオブース（夜）

坂井と細川、ラジオを収録している。  
坂井 「という訳で、2週間ぶりの登場です」  
細川 「えーこの度は皆様、ご心配をお掛けし、申し訳ございませんでした」  
坂井 「ほんとだよ。なんだよ突き飛ばされた奴に突き飛ばされるって。なんでビリヤード方式なんだよ」  
細川 「確かに」  
坂井 「そんで一人だけ入院。バカすぎんだろ」  
細川 「返す言葉もございません」  
坂井 「いつもろくに返してねえだろ。てかお前ってほんとに何にもしねえよな。悪ノリが悪化してたなら止めるよ」  
細川 「何にもできなかった。止めもせず、盛り上げもせず」  
坂井 「情けねえよほんと。そんで何もしてないお前だけが脳震盪。何もしなさすぎてバチが当たったんだな」  
細川 「同席した女性がちょっと困ってたので、止めに入るべきでした。本当に申し訳ございませんでした」  
坂井 「ほんとにな。反省しろよ。あと小平もな。あのバカ。あいつは余計なことばっかすんだよ逆に」  
細川 「全くもって仰る通りです……」

10.

### タクシー内（夜）

坂井と細川、無言で座っている。  
坂井はスマホを弄っている。  
細川 「……ほんとに、すまんかった」  
坂井 「いや別に良いよ」  
坂井、全く気にしていない様子。  
細川 「……そう言うと思った」  
坂井 「なら謝んなよ」  
細川 「でも流石にこれは」  
坂井 「別に良いって」

細川 「……なんで？」

坂井、少し驚いた様子で細川を見る。

坂井 「なんでって、何が」

細川 「なんで怒らねえの？ 仕事にも穴開けたのに」

坂井 「もともとスカスカだっただろ」

細川 「そういう問題じゃねえだろ。あーもう……」

細川、苦悶の表情。

細川 「お前おかしいって。人前ではめちやくちや俺のこと貶すくせに」

坂井 「そういう芸だろ。ただの」

細川 「そうだけど、裏でももうちよい言えよ」

坂井 「なんでだよ。なんで怒られたがってんだよ」

細川 「怒るべきところでは怒った方が良いつて」

坂井 「やだよめんどくさい」

細川 「めんどくさいとか言うな。俺を諦めるな」

坂井 「別に諦めてねえって。なんで俺が怒られてんの」

細川 「お前が俺に甘すぎるからだよ。俺なんかほんとに何もできないうし……なのに余計なこと足引っ張って……」

坂井 「え、お前それ……ほんとに気にしてんの？」

細川、しかめっ面で頷く。

坂井、ぽかんとした表情。

坂井 「……何を今更？」

細川 「いや、だって……」

坂井 「できない、やらないのが仕事だろ。お前の」

細川 「そうだけど……それにしてもというか……」

坂井 「しょうがねえだろ。俺がお前のこと誘ったんだから……お前があんま稼げてないのは申し訳ないけど」

沈黙が訪れる。

細川 「……飲み行くか。久々に」

坂井 「やだよ気持ち悪い。俺明日4時起きだし」

細川 「早え……」

夜の街道を、タクシーが走り去っていく。